



## 2025 年度 JRA 畜産振興事業 次世代の養蜂人材育成のための研修事業 事業報告書（概要版）

養蜂はハチミツ等蜂製品の提供のほか、花粉媒介を通じてわが国農業に貢献する重要な産業です。近年、SDGs の観点などから養蜂が注目を集める一方で、しかし、担い手不足や不十分な産業基盤といった課題があります。

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF）は、前年度に続き 2025 年度も、JRA（日本中央競馬会）から助成を受け、養蜂の意義・役割に加え、養蜂産業の課題や課題解決のアプローチを学ぶ高等学校向けの研修事業を実施しました。

研修のプログラムは、通年の国内研修と海外研修を組み合わせたものとし、海外研修には参加校から代表者が参加しました。一方、国内研修には、海外研修に参加しない研修参加者も参加し、年間を通じて学習を深めました。

## 1) 国内研修

国内研修は、①専門家による座学、②養蜂経営者訪問研修、③参加校間での学習共有と養蜂産業に関するグループワーク等を行う定期ミーティングから構成しました。

さらに、海外研修に参加する高校生と指導教員が持ち帰る内容をもとに、海外と日本を比較し、研修参加者全体で一緒に学びを深めました。

### ① 座学

研修全体の背景情報として、基礎的な知識を学びました。

### ② 養蜂経営者訪問

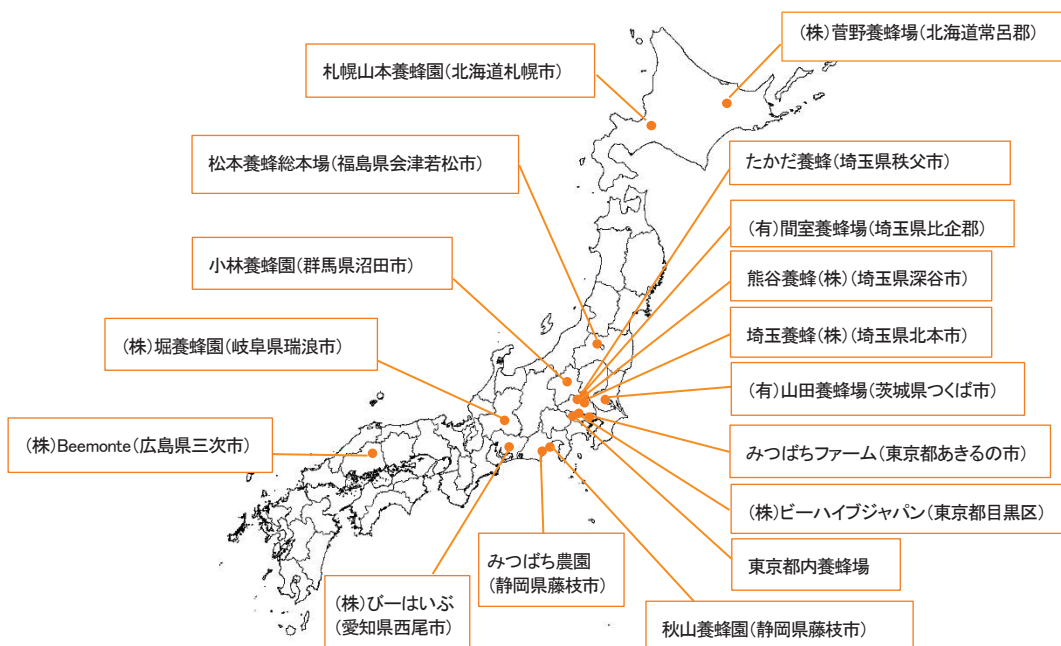
日本の養蜂産業を支える現場を訪問し、養蜂場や施設を見学させていただきながら、養蜂技術、法制度、養蜂業を行う上での課題や楽しみなどについてお話を伺いました。主として研修参加校の周辺地域の養蜂経営者に研修を受け入れていただいた他、埼玉の企業にて、巣箱等の製作工房、ハチミツの充填工場などを見学させていただきました。訪問の内容は代表者が定期ミーティングで報告し、規模や目的、地域ごとに異なる経営の特徴や共通する課題などを、学校を超えて共有しました。

### ③ 定期ミーティング

各校それぞれの活動や研究の成果を共有するとともに、グループワークを行い、養蜂産業に関する学習を深めました。また、2月には春の飼育管理を学びました。

養蜂経営者訪問研修の訪問先

※2024年度～2025年度



## 国内研修プログラム

	2024 年度		2025 年度	
	開催日	テーマ	開催日	テーマ
座学	6/15 (土)	第 1 回座学： 事業解題、農林水産省情報提供、ミツバチの生態と飼育方法、日本の養蜂・世界の養蜂	6/7 (土)	第 1 回座学： 事業解題、送粉昆虫としてのミツバチの役割、蜜源とミツバチの生態
	7/6 (土)	第 2 回座学： ミツバチと養蜂資源植物、農業と送粉サービス	6/14 (土)	第 2 回座学： 日本の法制度、行政機関・養蜂組織の役割、ハチミツの世界
			6/21 (土)	第 3 回座学： 世界と日本の養蜂教育、ミツバチの飼育技術、
	開催日	プログラム		プログラム
養蜂家訪問	7/27～ 11/11	養蜂経営者・企業への訪問(13カ所)：北海道・福島・群馬・茨城・埼玉・東京・岐阜・愛知・広島	7/30～ 12/23	養蜂経営者・企業への訪問(10カ所)：北海道・群馬・埼玉(3カ所)・東京(2カ所)・岐阜・広島・静岡
定期ミーティング	7/20 (土)	第 1 回定期ミーティング： 参加校による発表(各校の活動概要と学習テーマ)	7/20 (日)	第 1 回定期ミーティング： 参加校による発表(各校の活動概要)
	10/6 (土)	第 2 回定期ミーティング： 養蜂経営者訪問研修の結果共有、養蜂関連情報の紹介、学習進捗の共有	10/18 (土)	第 2 回定期ミーティング： 養蜂経営者訪問研修の結果共有、養蜂関連情報の紹介、学習進捗の共有
	11/30 (土)	第 3 回定期ミーティング： 養蜂経営者訪問研修の結果共有、養蜂産業の今と未来を考えるグループワーク	1/11 (日)	第 3 回定期ミーティング： 養蜂経営者訪問研修の結果共有、養蜂産業の課題と解決策を考えるグループワーク
	2月 (随時)	第 4 回定期ミーティング(個別オンライン) ・研修振り返り ・成果発表会準備	2/23 (祝)	第 4 回定期ミーティング： 参加校による発表(各校の活動状況)、春の飼育管理(講義と内検実習) ※他校からのオブザーバーあり

### 研修参加校

※二重枠線の学校は、2年連続の参加校  
※2024年度は14校、2025年度は12校が参加

安城農林高等学校 プロジェクト Bee 研修班	N高等学校 AMBER BEE project	大妻嵐山中学・高等学校 みつばちプロジェクト	ぐんま国際アカデミー高等学校 -	札幌大通高等学校 ミツバチプロジェクト
静岡サレジオ高等学校 サレジオメソッド 華羅ファーマーズGafé	静岡雙葉高等学校 ミツバチプロジェクト Vol. 3	聖学院中学・高等学校 聖学院みつばちプロジェクト	聖心女子学院高等科 みこころミツバチプロジェクト	世羅高等学校 農業経営科ミツバチ班
多治見西高等学校 多治見西ミツバチプロジェクト	筑波大学附属坂戸高等学校 筑坂養蜂団体 BEETles	日本工業大学駒場中学校高等学校 園芸養蜂部	安田学園高等学校 -(生物部ミツバチ班)	留辺蘂高等学校 自然環境研究

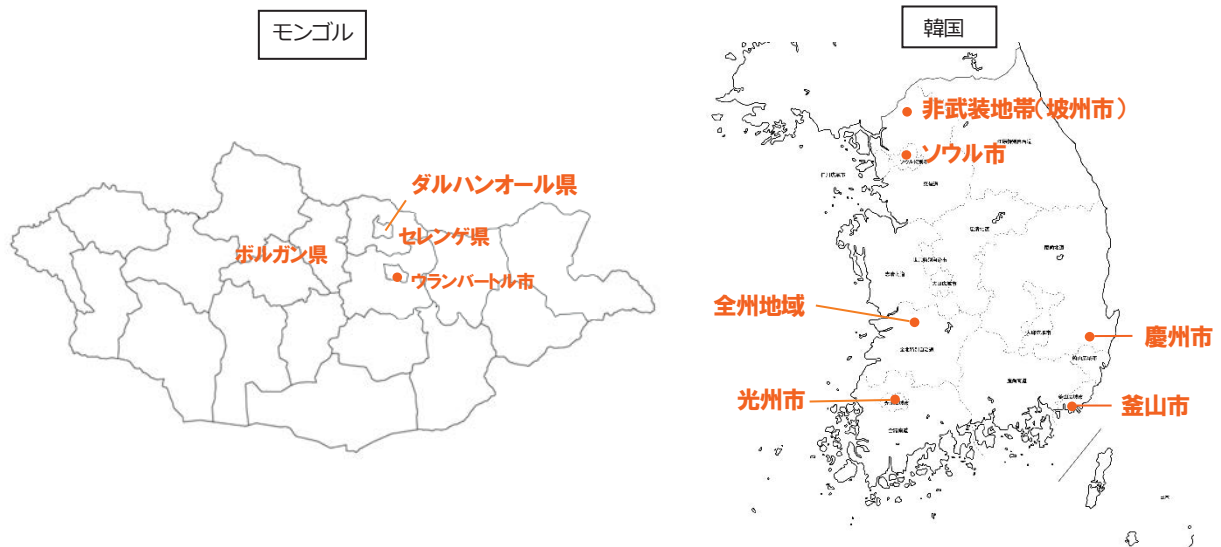
## 2) 海外研修

2024年度はモンゴル、2025年度は韓国で海外研修を実施しました。

2024年度は各校の生徒の代表者が、2025年度は生徒および教員の代表者が参加し、養蜂専門家にも同行・指導をいただきながら、日本との比較学習を行いました。

日本帰国後は、海外研修に参加しなかった生徒や教員、および一般の方々を対象に帰国報告会を行い、研修の成果を発表しました。

### 海外研修訪問地



### 海外研修プログラム

※2024年度は13校（生徒17人）、2025年度は10校（生徒18人、教員3名）が参加

2024年度（モンゴル）		2025年度（韓国）	
研修期間	プログラム	研修期間	プログラム
7/20 (土)	オリエンテーション（研修注意点、モンゴル社会とモンゴル養蜂事情ほか）	7/20 (日)	オリエンテーション（研修注意点、韓国養蜂事情ほか）
8/10 (土) ～ 8/20 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者顔合わせ・注意事項確認（8/10）</li> <li>関係機関：獣医薬研究所・中央獣医衛生ラボ・JICA・モンゴル農業大学（8/12-8/13）</li> <li>養蜂現場：養蜂場・ハチミツメーカー・農科大学養蜂専科（8/15-8/18）</li> <li>研修とりまとめ（8/19）</li> </ul>	8/16 (土) ～ 8/23 (土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者顔合わせ・注意事項確認（8/16）</li> <li>ミツバチテーマパーク（8/17）</li> <li>養蜂現場2カ所（8/18）</li> <li>養蜂資材会社2カ所（6次産業化ショップ含む）（8/19）</li> <li>養蜂研究機関（8/20）</li> <li>養蜂現場1カ所（8/21）</li> <li>研修取りまとめ（8/23）</li> </ul>
8/21 (水)	帰国報告会 <ul style="list-style-type: none"> <li>行程報告</li> <li>グループ発表1：養蜂産業の意義と課題</li> <li>グループ発表2：ハチミツ</li> <li>グループ発表3：病害虫（ミツバチヘギイタダニ）防除</li> <li>グループ発表4：ミツバチの蜜源と花粉源</li> </ul>	8/24 (日)	帰国報告会 <ul style="list-style-type: none"> <li>行程報告</li> <li>グループ発表1：養蜂産業と自然環境</li> <li>グループ発表2：日本と韓国の技術課題</li> <li>グループ発表3：養蜂産業の普及</li> <li>グループ発表4：日本の未来への提案</li> </ul>



## 2024 年度事業

養蜂経営者訪問



モンゴル研修



定期ミーティング



# 2025 年度事業

養蜂経営者訪問



韓国研修



## 2025年度

2025年度は、前年度の研修で見出した「養蜂産業の課題と実現したい未来」について、定期ミーティングで議論し、掘り下げてきました。成果発表会では養蜂産業の課題を「飼育技術」「農業との関係」「研究・普及」「担い手」「政策・行政」「市民社会・地域社会」「蜜源・環境」の各分野で整理し、解決の手立てを事業計画の形で提案することとしました。

本稿執筆時（2026年3月初旬）では、まだどのような提案が出てくるかわかりませんが、次代を担う若者として、実現可能性よりも新しい視点やアイデアを優先した検討を促しています。

1年間の研修と学校での活動を通じた学びの集大成として、従来の養蜂産業の殻を打ち破る提案がなされることを期待しています。

## －おわりに－

2025年度は、生徒だけでなく指導教員も研修対象として積極的にプログラムへ参加してもらいました。本事業の成果を持続させるには、教員が産業的視点を持ち、地域の養蜂経営者や養蜂団体と関係を構築することが不可欠だと考えるからです。

若い世代にとって、高校時代は将来を左右する重要な時期であり、学校での経験や指導者の支援が大きな役割を果たします。他方、本事業が養蜂産業に関する学びを提供したことは、参加生徒の進路選択において極めて重要な視点をもたらしました。事実、参加生徒の中から、ミツバチ研究を目的として進路を選択した人や、環境・農業を学ぶための学部に進む人、養蜂業への参入を見据えて進学先を決めた人が現れています。また、ミツバチ研究で受賞した生徒もいます。こうした成果は生徒自身のたゆまぬ努力や学校での日頃の学習の取組によるものですが、種となり、芽が出て花が咲き、やがて果樹のように定着するように、本事業が学びを深め、意欲を後押しした結果でもあります。各校の活動強化のみならず、学校間ネットワークの構築においても、本事業は多大な貢献を果たしました。

本事業の成果が未来の養蜂経営者、養蜂研究者、養蜂を理解する行政関係者の育成に直結し、養蜂産業にとっても貴重な人材獲得の機会になることを願います。

### 【本事業問合せ先】

公益社団法人国際農林業協働協会 (JAICAF) <https://www.jaicaf.or.jp/>

業務グループ 西山 亜希代 ([deske@jaicaf.or.jp](mailto:deske@jaicaf.or.jp))

森 麻衣子 ([m.mori@jaicaf.or.jp](mailto:m.mori@jaicaf.or.jp))

〒101-0047 千代田区内神田1丁目5-13 内神田TKビル4F(北)

Tel: 03-5772-7880 / Fax: 03-5772-7680